HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	献辞
Author(s)	是永, 純弘
Citation	經濟學研究, 34(4)
Issue Date	1985-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/31665
Type	bulletin (article)
File Information	34(4)_Pv-vi.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

献　　辞

経済学部教授　農学博士　林 善茂先生は昭和60年３月31日をもって定年退官されることになった。

林先生は大正11年２月小樽市に生をえられ，小樽中学校から北海道帝国大学予科を経て同大学農学部に進まれ，戦雲いまだ去らぬ昭和18年９月同学部農業経済学科を卒業の後，大学院特別研究生を経て戦後間もない20年11月農学部助手に就任，23年助教授に昇進されたが，昭和28年８月，創設なお日も浅いわが経済学部の助教授に迎えられ，爾来今日まで30有余年にわたり本学部の専任教官として，農学部の講師をも併任されるほか，教育学部，文学部，法学部に於いても北海道経済史の講義を担当されてきている。

この間，林先生は一貫して北海道農業史，北海道開拓史，ならびにアイヌ民族の歴史という独特かつ広大な分野の研究に専念され，本巻所載の目録に見られるような数多くのユニークで優れた著書，論文等を相ついで発表され，北海道の歴史とりわけその経済史，なかんずくわれわれにとっての先住民族であるアイヌ民族文化史の研究の発展にきわめて大きな貢献をなされた。特に昭和44年に公刊された著書『アイヌの農耕文化』（慶友社）は先人未踏の研究領域に初めて科学的な研究のメスを加えられたもので，我国におけるこの方面の類書を絶する画期的業績として，高く評価されているものである。研究と教育の両面における林先生の御活躍は他の大学に類例のない独自のものとして，多年我が経済学部の名を全国的に高め，毎年先生の講義には他学部はもとより他大学からも多数が聴講を希望しており，また先生の研究者としての御令名と温厚な御人柄を慕って林ゼミを卒業した学生の数はおそらくわが学部の筆頭を争うものであろう。

先生はさらに昭和38年に経済学部教授に昇任され本学大学院経済学研究科および農学研究科において院生の指導にもあたられ，かたわら本学北方文化研究室の委員をつとめ，40年以来経済史講座を担当されている。また47年以降は評議員，さらに51年４月には経済学部長・大学院経済学研究科長として学内行政の枢機にも参画され，学部および大学院研究科の発展のために大いに貢献された。

学外にあっても，林先生の御活躍の分野は広く，社会経済史学会，日本民族学会に所属，それぞれの会の発展に尽力されるほか，昭和38年以降は北海道史編集所（北海道）の編集員として『新北海道史』の編集・執筆にあたられ，全９巻の大部にわたる同書の完成に多大の寄与をなされている。このほか，アイヌ文化保存対策協議会，白老民族資料館運営委員会，小樽市文化財審

議会，北大付属図書館北方資料室運営委員会等，その御研究の専門に関わる諸委員の要職をつとめられ，アイヌ文化を保存しその研究を推進するために尽力された功績もはなはだ大なるものがある。

このように，経済学部の創設期以来長年にわたって，研究，教育，学部運営の各方面にわたって力をつくされ，多くの優れた学生を世におくられるとともに，アイヌ民族文化の歴史的研究を先導されることによって本道の経済史学界の研究水準の向上に大きな推進力となって成果を挙げてこられた林先生を，われわれは春なお浅きエルムの学園から今お送りしなければならなくなったことに，一抹の寂しさを禁じえない。しかし幸い先生には現在御健康状態もよろしく，次の御仕事の用意も既に整えておられるとのことである。今後とも益々御健勝で御研究を大成され，われわれ後進を指導されんことを願いつつ林善茂先生御退官記念論文集の粗辞にかえたい。

昭和60年3月

北海道大学経済学部長　是　永　純　弘